

まちづくり市民懇話会

とことん懇話会

TOPICS

第39回目もオンラインで開催し、市民同士のつながりの場の進行管理の場、行政とのつながりの場について、前回の意見交換を確認し、既存の取組などから、今後求められる場や取組について、さらにみんなで共有・意見交換しました。



オンラインで開催!

とことん1

到達目標 「今後求められる“場”の機能」に関する前回の意見交換を振り返り、どうすれば場や取組が活性化するかなどの深堀り、前回意見交換できていない部分について意見交換しましょう。

事務局より、今後求められる“場”の3つの機能と、前回の懇話会における3つの論点について再整理したあと、前回意見交換が出来ていない点（総合計画の進行管理の場）、今まで整理した中で抜けている点や新たな視点、具体的な取組について、全体で意見交換を行いました。

前回の意見交換のまとめ①

1. 地区市民協議会における課題への対応 (継続的に関われる仕組みと人材の育成・体制をどうするか)

現状

- ・市民協の役員は、各団体からあて職などで決まる
- ・例年の行事をこなすことが活動の中心となり、部会同士の横の連携や、地域のまちづくりについて議論するような場がない（一部活性化している市民協はある）

現状を改善するために

- ・地域の課題をいちばん分かっているのは地域住民であり、地域住民が参加する市民協の重要性は変わらないため、活性化が不可欠
- ・まちづくりを深く考えるために長期的に個人として参画し関わる仕組みをつくる
- ・「住民自身の手によるまちづくりを進める」という目的に沿ってしっかり進める
- ・事業者の意見を取り入れる仕組みをつくる
- ・まちづくりについて自ら企画できる人・したい人を集めるとともに、養成していく
- ・若い世代で構成される地区市民協議会のようなものをつくる
(→関連 2.若い世代の意見をどう拾うか)

(市の考え方) 地区市民協議会は市民同士の場となっており、行政が主導するものではないが、支援の在り方など関わり方については検討が必要

■開催概要

第39回：令和4年10月16日（日）

場 所：オンライン+市役所（臨時オンライン会場）

参 加 者：市 民：現地オンライン 5名 オンライン 8名
若手職員：現地オンライン 3名

議 題：1. 今後求められる“場”について（前回の振り返り）
2. 意見交換
3. 次回について

とことん1・続

市民が“場”へ参加するために

課題

- 諦めの感覚を持っている人が多いと思う。市の取組は誰かがやっているだろうと他人事になっている。市の取組に対して、参加者である感覚が薄れてきていると感じる。
- 関わることで「成果がどのようにだせて、満足度が得られるのか」というのが重要。関わっても時間の無駄であったと思われるようなケースが多いから、それなら時間のある人に任せようになってしまう。
- 関心のあることは調べるが、不自由なければ興味を示さない。市政の内容や現状が市民にとって分かりにくいと思う。



対策

- 活動を引っ張っていく先導者と、どういったタイミングで何をするかが、世代に共通して重要。
- 子育て世代や若者が参加しやすい時間・場所で“場”を設けるのがよい。
- 自分に直接関係のあるテーマ（対象を絞った会議）であれば参加しやすい。
- ホームページや広報などで、より積極的な情報公開が必要。
- さらに活動を継続・拡大するには、賛同者を増やし、年代問わずより多くの市民（企業）を巻き込むことが必要。

庁内サポーターが懇話会に参加したきっかけ

- 入庁前に別のまちづくり市民懇話会に参加して楽しかったので、入庁後もこういった場で深い議論がしたいと思い、参加した。
- 市職員であり、上司に勧められたので参加したが、別の仕事をしていたら家事や子育てに追われ、他人任せになっていたと思う。

とことん2

懇話会後の参加市民・若手職員からの感想です



市民

- ・ まちについてのフラットな意見交換ができる場がほかにないので、懇話会を何らかの形で続けることは意義があると感じました。顔見知りになって新しいつながりができたり、ほかの方の取り組みを知れるだけでも意味がありそう。
- ・ まちづくりや岸和田市を良くする！ など大きなテーマでは、関心してもらいにくいので、もっとピンポイントの内容で意見を求めますともらえれば、自分事として市民の方々も参加しよう！と思えます。
- ・ 市政に対する無関心層へのアプローチの議論はとても難しいと思いました。など



若手職員

■今後の予定

【第40回】令和4年10月30日（日）➡ 最終報告会

お問い合わせ：岸和田市役所 総合政策部企画課 政策担当 （tel. 072-423-9492）